

「9月1日は防災の日」 備えあれば憂いなし

問 総務課 防災危機管理室 ☎⑤6703

「防災の日」は、大正12(1923)年の9月1日に発生した「関東大震災」を教訓に、広く国民が災害に対処する心構えを準備することとして、昭和35(1960)年に制定されました。また、この時期は台風の襲来が多い時期であることから、災害への備えを怠らないようにとの戒めの意味もあります。



災害が起こったら

- 慌てずに、まずは自分の身を守る行動をとりましょう。
- ラジオ、テレビ、携帯電話などから正確な情報入手しましょう。
- 避難をするときには、火の始末を確認し、ガスの元栓を締め、電気のブレーカーを切ってから落ち着いて行動しましょう。
- 大雨、夜間などで外に出ることが危険な場合には、無理に外に出ず、家の中の高いところや安全なところで身の安全を守りましょう。

日ごろから備えられること

- 地震の際に転落や落下の恐れがある家具や電化製品を固定したり、高い所に物を置かないなどの対策をとり、けがを防ぎましょう。
- 防災マップ、ハザードマップ、市ホームページなどで災害の危険がある所や、自宅、学校、職場などからの最寄りの避難所と避難経路を確認しておきましょう。
- 地域の人たちと災害について話し合い、地域の防災について考えましょう。

非常時の持出品の確認

- 災害の発生や、避難所に避難する際に備え、非常時の持出品を準備しましょう。
- 持出品は、家族構成や各家庭の事情に合わせて必要なものを準備しましょう。
- 保管場所は、非常時に慌てて探すことがないように目に付く場所に置きましょう。

避難するときに持って行くもの(例)

- ▶ 貴重品…現金、印鑑、保険証、預金通帳など
その他、身分を証明できる物
- ▶ 衣類・洗面道具…下着、靴下、厚手の上着、眼鏡、歯みがき道具、タオル、せっけん、シャンプー、女性用品、紙おむつなど
- ▶ 水・食料品…飲料水、非常食、粉ミルクなど
- ▶ その他…懐中電灯、携帯ラジオ、電池、軍手、ライター・マッチ、ティッシュ、使い捨てカイロ、雨具、救急医療品、常用薬など

備蓄しておくもの(例)

- ▶ 懐中電灯 ▶ ラジオ ▶ 電池 ▶ ろうそく ▶ 簡易ガスコンロ
 - ▶ 使い捨てカイロ ▶ 食料と1人1日3リットルの飲料水(3日分を目安に)
- ※ 赤ちゃん、高齢者、女性、持病・アレルギーのある人などがいるご家庭では、日ごろ使っている物を考慮し、それぞれの人に必要な物を備蓄しておくようにしてください。

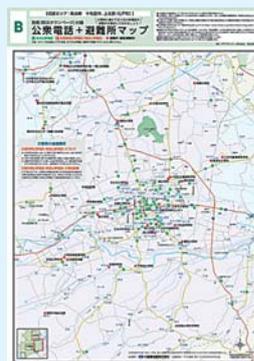
もしもの備えに「防災タウンページ」の確認を！

問 タウンページセンタ
☎0120-506309

日ごろからの備えや災害時の行動ポイントを掲載した「防災タウンページ青森県版」が、5月に「タウンページ」と一緒に全住戸・全事業所にお届けされました。お届けエリアの避難所と公衆電話の設置場所を記載した「公衆電話+避難所マップ」も付いていますので、災害発生時はもちろん、いざという時に備えて確認しておきましょう。



防災タウンページ



公衆電話+避難所マップ